Natori なとり

こくさいこうりゅう
国際交流ニュースレター

第5号　　なとりしそうむぶそうむか
発行：名取市総務部総務課（平成18年6月25日）

特　集

オーストラリア、マウントウエイバリー・セカンダリーカレッジと交流協定を締結

中学生海外派遣事業の交流先であるマウントウエイバリー・セカンダリーカレッジ（オーストラリア、ビクトリア州）と名取市は、現在行っている相互交流プログラムをより充実させることを目指し、その基盤となる友好と交流に関する協定を締結しました。

二〇〇六年は「日豪交流年」。九月にはマウントウエイバリー校からも二十三人の生徒たちが名取市を訪れ、市内でホームステイをする予定です。交流協定の締結により、今まで以上に友情が深まることが期待されます。

調印した協定書を手に。左から佐々木市長、ジョイ・バナージ市長、グレン・プロクター総長。
協定書は日本語版・英語版のセットが２部作成され、マウントウエイバリー校と名取市で同じものを保管しています。

協定書の調印は二〇〇六年四月五日（水）（日本時間同日）、マウントウエイバリー校の日本庭園で執り行われました。

名取市から派遣された中学生二十二人とそのホストスチューデント、関係者が見守る中、同校のグレン・プロクター総長と佐々木名取市長が協定書に署名。そして同校の所在地であるモナッシュ市のジョイ・バナージ市長が証人としての署名を行い、調印は無事終了しました。

調印式の中では名取市長から鯉のぼりが友好の記念として贈られました。マウントウエイバリー校では三本の桜の苗木を準備し、プロクター総長とバナージ市長、佐々木市長が会場の日本庭園に記念植樹しました。

同校の日本庭園は昨年完成したばかりで、紅葉や柳の木はありましたが、桜の木が植えられたのは初めてだそうです。

日本とは季節が逆のオーストラリアですが、花が咲いたらお花見をするのを、マウントウエイバリー校の生徒たちは楽しみにしています。

協定の締結を記念して、マウントウエイバリー校の日本庭園に桜を植樹。

オーストラリア こぼれ話

平成 17 年度派遣事業でのちょっとした話題を集めてみました。

←オペラハウスの洗面所

シドニーの有名な観光スポットであるオペラハウス。外側も素晴らしいですが、内部のデザインもモダンです。しかし水がこぼれないか、少々心配しながら使いました。

↑学校体験

ホームステイと並んで派遣団員の思い出に残ったのが学校体験でした。中でも歴史の授業では「侍（さむらい）」「幕府」などを日本語で書くようお願いされるなど大活躍。

上の写真は教科書で、侍や切腹について説明しているページです。

ガーデンシティ、メルボルン→

オーストラリア第２の都市メルボルン。「ガーデンシティ」との愛称でも呼ばれ、緑豊かな歴史と現代が融和する美しい街です。

写真は市内を流れるヤラ川から臨むフリンダース・ストリート駅。

マウントウエイバリー校のあるモナッシュ市はメルボルンから南東に車で約４０分の場所に位置しています。

日豪サッカー対決→

日豪戦は実は４月から行われていた…というのは冗談ですが、マウントウエイバリー校でのひとコマ。

こういった中学生たちの様子を見ていると、言葉や国の違いは意外に簡単に乗り越えられるのだな、と感じます。

じょうほう掲示板

今号もなとり国際交流ニュースレターをお読みいただきありがとうございました。

今回は中学生海外派遣事業にちなんでオーストラリアの話題をお届けしましたが、いかがでしたでしょうか。

このニュースレターでは海外での交流体験だけでなく、市内で国際交流や多文化共生に関わっている方の活動や、名取にお住まいの外国人の方を紹介するなど、私たちの身近な話題も取り上げていきたいと考えています。

ぜひ皆様の身近な方たちの情報をお寄せください。名取市の国際交流に関するご要望もお待ちしております。

【情報はこちらへ】
〒981‐1292（住所記入不要）
名取市総務部総務課広報広聴係
電話 384-2111 内線 317　FAX384-9030
Ｅメール：soumu@city.natori.miyagi.jp

中国語版「名取市ごみの出し方パンフレット（名取市再生資源 16 項分类与回收方法和 2 类生活垃圾的投放方法）」ができました！

市役所総務課、クリーン対策課、市民課の窓口で配布しています。

中国語を母語とする方で、ごみの出し方がわからず困っている方、ぜひご活用ください。

※問い合わせは、名取市総務部総務課広報広聴係（3階　電話３８４－２１１１内線３２７）へ。

平成17年度
名取市中学生海外派遣事業

事務局随行　雑記帳

中学生海外派遣事業に参加するのは生徒だけではなく、各種の連絡調整や生徒指導役として、大人の特別団員（随行）も同行しています。

「広報なとり５月１日号」では現地での中学生の様子を中心にお伝えしましたが、今回は「大人が体験したオーストラリア」を、事務局随行員が「雑記帳」の形でご紹介します。

メルボルン博物館。マウントウエイバリー校のあるモナッシュ市は、メルボルン市から車で約４０分の距離。

平成十七年度の名取市中学生海外派遣事業は、三月二十九日(水)から四月七日(金)までの十日間の日程で行われ、オーストラリアを訪問しました。

メルボルン近郊のモナッシュ市にあるマウントウエイバリー・セカンダリーカレッジ(ＭＷＳＣ)での授業参加やＭＷＳＣの生徒宅へのホームステイを主な目的とするこの派遣研修は、名取の生徒(派遣団員)たちにとって一生の思い出となる実り多いものとなったようです。

特別団員(随行員)は・・・

四月一日(土)(日本時間同日)のお昼ごろにＭＷＳＣに到着した派遣団一行は、学校の体育館で行われたホストファミリーとの対面(式?)を経て、これまでの団体生活から離れ、二十二人の派遣団員はそれぞれの家庭に、五人の随行員は学校近くのモーテルに五日間の生活の拠点を移しました。

おりしもこの日は土曜日。随行員(私たち)は一人びとりになった団員のことを心配しつつも、モーテルで若干息の抜ける時間を過ごしていました。程無くＭＷＳＣのレスリー・マリンズ先生がモーテルを訪れ、「今日と明日の過ごし方の相談をしよう」、と親切にお世話役を買って出てくださいました。

オーストラリアンフットボール

「今日（土曜日）の夜、メルボルンでフットボールの試合があるけど興味あるかい?見学（観戦）してみては?」との先生の提案に、半信半疑（見たことがないスポーツなので･･･)ながら、従ってみることにしました。

メルボルン博物館でレスリー先生と別れた私たちは、博物館を見学した後、市内を走るトラム(路面電車)を使ってスタジアム（Telstra Dome: テルストラドーム）に向かいました。

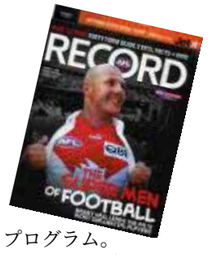
メルボルン市内を走るトラム。

スタジアムの前でレスリー先生と落ち合い、案内を受けながら内部に入ると、そこは客席が三階建てになっている巨大なドームスタジアムで、その広さと素晴らしさに私たち一同感嘆の声を上げたことを覚えています。

競技はラグビーとアメリカンフットボールに近いイメージですが、選手はアメフトのような防具を身に着けていませんし、ルールもラグビーやアメフトとは違います。なんと言ってもグラウンドの形が「楕円形」(私としてはこれが最も珍しい)なのが驚きです。

試合はメルボルンの「ESSENDON」とシドニーの「SYDNEY」との間で行われ、試合中、ルールの推測をしながら観戦しました。

この競技は、レスリー先生も大ファンのようで、スタジアムで買い求めた「プログラム」に載っていたユニフォームの柄で全十六チームの名前などを教えてくださいました。



プログラム。
チームのスポンサーになっている日本の自動車メーカーもあるようです。

この広さと楕円形のフィールドに感動！
未知のスポーツでしたが、一瞬にして心が躍り出し、応援にも熱がこもりました。

レスリー先生は「僕の息子も少し前まではフットボールをしていて、続けていればグラウンドの選手よりも上手いかも･･･」。

私は（ここがメルボルンなので)当初メルボルンのチームを応援していましたが、隣の席でレスリー先生がどうやらシドニーのチームを応援しているらしいことに途中で気が付き!!!、手のひらを返したようにシドニーへの応援に切り替えました。(事情が分かりません??)

随行員も体験学習

結局試合はメルボルンのチームが勝ちましたが、この日は初めて見る競技や施設のスケールの大きさなどに驚き、私たちにとっては何もかもが大変珍しく貴重な体験となりました。

また、スタジアムでアルバイトをしながら語学の勉強をしている日本人の女子学生にも偶然出会い、言葉を交わしたこともオーストラリアと日本の交流の深さを改めて感じさせられる出来事でした。

オーストラリアで私たちが体験したことはまだまだ他にもありますが、それはまたの機会に････。

レスリー先生どうもありがとうございました。

（事務局　佐藤　恭）

防具も無く、ユニフォームもノースリーブ…。大きな選手たちがぶつかり合う迫力は圧巻です。